

在外公館文化事業「和紙・折紙展」開催

2月24日から3月6日にかけて、在アルメニア日本大使館は、国立美学センター子ども美術館ギャラリーにおいて、在外公館文化事業「和紙・折紙展」を開催しました。

2月24日に行われたオープニングでは、青木大使が挨拶を行い、日本の伝統的な和紙文化と折り紙芸術の魅力や文化的意義について紹介しました。また、国立美学センターのバダリャン館長からも歓迎の挨拶があり、本展覧会の開催を祝いました。

会場では、日本の伝統的な手漉き和紙やその製法を紹介する展示のほか、アルメニア人折り紙作家による多彩な作品が展示され、来場者は和紙と折り紙が生み出す繊細な美しさや芸術性を楽しみました。また、展示を通じて参加者同士の交流も生まれ、日本文化への理解を深める機会となりました。

2月28日と3月1日には、折り紙および紙すきのワークショップも実施されました。

本展では、子どもたちの作品も展示され、子ども美術館において自らの作品を披露するなど、文化交流の一環として大きな役割を果たしました。



開会式でスピーチを行う青木大使



開会式の様子



折紙ワークショップ



紙すきワークショップ